

1.

氏名 : Ms. Fernanda Bettencourt Vieira

国名 : ブラジル

所属組織 : 連邦大統領府 女性政策事務局

2. 基本情報

ブラジルは南アメリカに位置する。連邦共和国であり、26州・1連邦政府特別区（首都ブラジリア）・4地域からなり、市町村数は5,500を超える。1km<sup>2</sup>あたりの人口密度は22人である。政治制度は大統領制である。ブラジル国土は南米大陸のほぼ半分を占め大陸最大の面積であり、人口は1億9200万の人口を擁する面積・人口ともに世界最大級の国家である。

ブラジルはラテンアメリカで、唯一ポルトガルの植民地だったために、ポルトガル語が話されるただ一つの国である。16世紀以来、ブラジルは多様な文化、特にヨーロッパ、アフリカ、そして先住民文化のつぼと考えられてきた。19世紀以降は日本人の移住が大きな動きで多様な文化を持つブラジルにさらにアジア系が加わった。2000年の統計でブラジルの人口は、白人48.4%、黒人（「茶色の」人々も含む）50.6%で、0.8%程度がアジア人と先住民であった。公用語はポルトガル語だが市町村レベルで話される母語（native languages）が2言語存在する：ニェンガツ語（Nhengatu）、サンガブリエル・ダ・カシヨエイラ（Sao Gabriel da Cachoeira (AM)）およびグアラニー語（Guarani）、Tacuri (MS)の他180超の公用語とされない現地語が存在する。ブラジルは南アメリカの経済大国であり世界10大経済大国に数えられる。2010年1月、ブラジルは2010-11年の国連安保理事会非常任理事国入りした。経済は発展し国際的リーダーシップは得たものの、未だに多くのブラジル人が貧困や不平等に苦しんでいる。貧困や経済的／地域的／ジェンダー／人種的不平等は大きな課題である。

3. ジェンダー主流化における3つの主要課題／障害

2003年1月、ルイス・イナス・ルーラ・ダ・シルバ、通常ルーラの名前で知られる、かつて貿易組合リーダーであり工場労働者であった人物が、ブラジルで最初の労働者階級出身の大統領に就任した。労働党党首として、ルーラは社会事業の増強と貧困問題の改善に尽力し続けている。2003年以降、ブラジル政府は、不平等問題に取り組むという課題を引き受けた。女性政策事務局は法制度の枠組、および女性を対象とした公共／社会政策における大幅な変更を行う。ブラジル人女性の長年の要求によって、国家女性政策計画の指針ができた。Nilcea Freireは2004年から女性政策事務局長を務めているが、彼女はまた全国女性評議会（Women's National Council）議長でもある。同氏は博士であり教授でもあり、ブラジルで初めての女性の大学長となった（リオ・デ・ジャネイロ）。

4. 現行の主要国家政策／計画における3つの優先事項

3つの優先事項を以下に示す：

- ◆権力を持つ立場／意思決定／経済的自立への女性の参加
- ◆多様性を受容する教育、性差別／人種差別／同性愛者差別を容認しない教育を推進する
- ◆女性の健康権・性の権利・生殖権
- ◆女性に対するあらゆる形態の暴力との闘い

## 5. 職務内容

公共行政の専門家、すなわちブラジル公共行政機関（政府の戦略的能力を強化するために創設された機関）の専門職として、また、ジェンダー研究の専門家としての私の責務は次のとおりである。

- ◆ 国家女性政策計画の実施に関連する部局の副事務局のアドバイザーを務める；
- ◆ UNIFEM との技術協力協定を管理する；
- ◆ 知識の醸成と共有を促進する。

## 6. ジェンダー主流化にあたっての課題 および 7. 同課題選定理由

数多くの分野で顕著な改善がなされてきた。にもかかわらず、行政官の間での女性政策／各ツールに関する意識が弱いこと、主要政策には未だにジェンダーアプローチが適用されていない。したがって、重要課題の一つは行政官の啓発／研修リソースの改善による一般公共政策策定における効果的なジェンダー主流化の推進である。

## 8. セミナーから得た知識とスキル

研修を通して有用な知識やスキルを獲得した。その一例はジェンダー配慮 PCM で、プロジェクトにおけるジェンダー問題の取り組み方を決定する上で大変実践的かつ有用なツールである。特に、その中で考察した「隠れたジェンダー問題」は、大変有益である。というのも、プロジェクト具体化の初期段階にはこのような問題は認識も特定もされず、多くの場合ジェンダーの視点を取り入れた行動（ジェンダーアクション）は盛り込まれることがないからである。また、ジェンダーデータリソースに関する全ての情報や討議も、私のアクションプランには大変重要であった。必ずや実行の一助となるであろう。セミナーで獲得したツール／知識／スキルを今後も拡充していきたい。

## 9. ジェンダー主流化に関するアクションプラン

- (1) プロジェクトタイトル：Women Matters! Multiplying Awareness on Gender Policies  
女性に注目！ジェンダー政策に対する意識を高めよう
- (2) 期間：10ヶ月間
- (3) 対象領域：6省と1事務局。以下に具体的に示す：  
企画予算省、社会開発飢餓対策省、労働雇用省、観光省、農業開発省、社会福祉省、および人種・民族平等推進政策局(Secretariat on Policies for Racial and Ethnic Equality Promotion)の行政官を対象とする。
- (4) 受益者層（ターゲットグループ）：
  - ・直接的受益者：上記各省の行政官
  - ・間接的受益者：ブラジル人女性
- (5) 実施機関：連邦大統領府 女性政策事務局
- (6) 上位目標：ブラジルにおける女性政策の強化
- (7) プロジェクト目標：
  - ・行政官間における女性政策意識の向上と各ツールの強化
  - ・「4ヶ年計画 2012-2016」のためのジェンダー・センシティブな草案策定への貢献
- (8) 活動：
  - ・行政官向けの、使いやすい女性政策ハンドブックの作成
  - ・研修コースの実施（2コース）
  - ・「4ヶ年 2012-2016」の会議の場で研修成果を共有し、最終合意に至る。

ジェンダー・センシティブな計画が部門別に「4ヶ年 2012-2016」に盛り込まれれば、公共政策におけるジェンダー主流化が可能となるであろう。